

福井の幕末明治 歴史秘話

<第35号>

幕末に曹洞宗の宗権確立に挺身した臥雲禪師！

平成30年8月30日発行

近代社会への変革を目指した幕末明治期。今回は、この大変革期に23年にわたり大本山永平寺の舵を取った臥雲禪師（がうんぜんじ）を取り上げます。

臥雲禪師は、寛政2（1790）年、薩摩国（鹿児島県）日置郡に弓削（ゆげ）家の八男として生まれました。文化元（1804）年、14歳の時に出家。19歳の時、薩摩を旅立ち、相模国東照寺等で修行した後、天保6（1835）年、江戸大円寺の住職に抜擢されます。そして、嘉永元（1848）年、越前永平寺60世住職に就き、永平寺を取り仕切るに至りました。



臥雲禪師
(玄勝院蔵)

臥雲禪師は、薩摩と切り離せない縁があったと言います。臥雲禪師に長年寄り添い副寺として支えた高弟、**大辻是山**（おおつじぜさん）は薩摩出身でした。また、**西郷隆盛**、**大久保利通**と親交があり、永平寺住山の後も、上洛の際は京都の天寧寺において交際していました。特に西郷は永平寺にも来ており、禪師は常に彼を「吉之助」と呼ぶ親しい関係だったと言います。さらに、禪師は、江戸に出府した際には常に島津家を訪ねており、**島津斉彬公**が「有事の際は、臥雲、是山を使うべし」と語るなど、大変信任が厚かったと言われています（『西郷隆盛伝—終わりなき命』より）。

臥雲禪師の功績は、大きく3つが知られています。一つ目は、嘉永5（1852）年に行った、開祖である道元禪師の六百回大遠忌奉修。永平寺に10万人余りの参詣者があり大成功を収めました。二つ目は、嘉永7（1854）年に孝明天皇から下賜された、道元禪師の「仏性伝東」という国師号の実現。臥雲禪師は、実現にあたり、**井伊直弼**に面会し助力を働きかけたと言っています。三つ目は、**明治新政府の誕生を好機に取り組んだ**、宿願であった永平寺総本山制、宗規一新です。**松平春嶽公**の知遇の厚い彦根清涼寺住職、**雪爪**（歴史秘話第33号参照）が禪師の片腕として動いたと言います。結局、能登の総持寺が反対し両本山制となりましたが、明治元（1868）年10月には、他の宗門よりもいち早く宗教政策についての公論の場（会議）が設けられ、高く評価されています。

永平寺と総持寺による争論は4年にわたって続き、この間、明治3（1870）年11月に臥雲禪師が81歳で逝去します。争論での形勢不利を恐れた是山は、喪を1年間隠し続けました。臥雲禪師が不在では立ち行かない、そんな状況だったのかもしれませんが。

幕末明治期に永平寺の舵を取り、宗権確立のため奔走した臥雲禪師。その激動の長き道のりを貫いたもの、それは、大本山永平寺への一途な誠の心に違いありません。

<参考資料> 臥雲禪師語録 上下巻(大本山永平寺)、雲水街道をわたる（講談社出版サービスセンター）

～幕末ふくい歴史紀行～ [大本山永平寺]

・曹洞宗開祖・道元禪師が寛元2(1244)年に開いた坐禅の修行道場。境内には大小70棟余りの建物が並び、回廊で結ばれています。2015年からフランスの旅行ガイド本「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」にも掲載されています。

【住所】永平寺志比5-15(福井駅東口から京福バス「特急永平寺ライナー」で約30分)



永平寺唐門

★お知らせ 企画展「まつおかのものづくり」を開催！

・えい坊館で開催(平成30年9月23日(日)～10月21日(日))

・永平寺町松岡地区は旧松岡藩の城下町で、当時、様々な産業が栄えました。酒造や鋳物、竹細工など、松岡らしい産業の数々を紹介します。

【住所】福井県吉田郡永平寺町松岡神明3-107(えちぜん鉄道勝山永平寺線 松岡駅下車徒歩3分)

(発行者)福井県 (問合せ先)福井県観光営業部ブランド営業課 山田、前田 ☎ 0776-20-0762